

静岡県地学会のあゆみ(4)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-12-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00026164

静岡県地学会のあゆみ(4)

さる5月29日の総会において本年度事業計画の可決・承認をみた本会では、既に野外観察採集会(5月)、機関紙“静岡地学”第3号の発行(7月)、第1回例会の開催(8月)、静岡県産主要河川礫標本の作製・頒布(8月~9月)などを予定通り実施して来た。今回は未報告の第1回例会及び標本採集会について報告する。

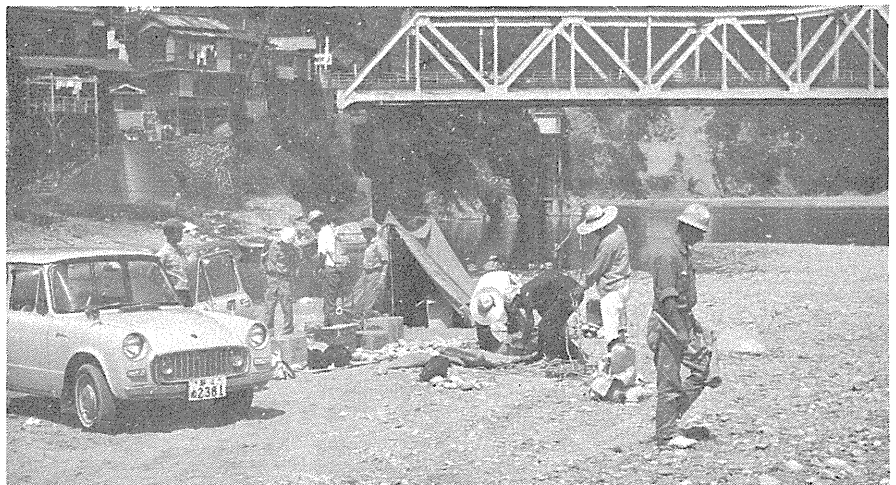
(1) 第1回例会

8月14日(土)午前10時半~14時半に亘って、静大地学教室を会場として行なわれた。午前の部では、周智郡森町立旭が丘中学校神間貞吉君の“地学教材の過程について”と題する研究発表が予定されていたのであるが、止むを得ぬ事情で静大教育学部伊藤通玄君の“静岡県の河川礫について”に変更された。この発表は次に述べる本県産主要河川礫標本作製の基礎資料を紹介したもので、本県のいわゆる五大河川(天竜川・富士川・大井川・安倍川・狩野川)の比較、標本採集予定地点の河床堆積物の粒度分布、礫の円形度及び礫種の比較等が行なわれ、夫々の河川の特徴が示された。午後は静大教養部鮫島輝彦君の“結晶をつくる話”が、豊富な標本の紹介とともに発表された。天然の鉱物結晶の成因の研究を基礎として結晶の人造法が発達してきた経緯より、現在行なわれているベルヌイ法をはじめ帯溶融法、引上法、電融法、高圧合成法などの結晶作製法の解説と、これらの方法で作られた人造ダイヤモンド、ルビー、サファイアなどが回覧された。

小・中・高等学校勤務の会員の実践的な研究発表が聞けなかったのが、いささか残念ではあったが、有意義な一日であったと思う。

(2) 静岡県産主要河川礫標本採集会

本誌第3号で予告したように8月16日~20日に亘って、好天に恵まれ予定通り実施できた。第1日は大仁において狩野川産の凝灰岩・安山岩を、第2日は岩淵において富士川産の閃緑岩・玄武岩を、第3日は手越において安倍川産の輝緑岩・斑粧岩・橄欖岩というように



テントを張っての採集会(天竜川)
~駿東郡長泉小の4会員は前夜この河原で野営され、
早朝から採集に協力された~

着々と目的の標本を採集した。第4日の大井川、第5日の天竜川での採集会をも合わせると、延べ80名に近い本会会員がこの採集会に参加され、標本採集に協力された。できるだけ典型的なものを集めようと広い河原を血まなこで探しまわった甲斐あって、ほぼ予定数(各標本とも100個)を確保することができた。この努力の結晶ともいべき標本は静大教養部西部教場に運ばれ、洗滌、整理、再検査ののち本誌裏表紙裏に掲げられたようにラワン製化粧箱に収納され、解説書とともに希望者に発送された。

5日間にわたる採集会のすべてに参加され、特に天竜川では河原で野営までされて協力された熱心な会員が幾人かあったことを付記しておく。